

令和3年第12回渋谷区教育委員会定例会会議録

- 1 開会日時 令和3年6月17日(木)午前10時00分
- 2 閉会日時 令和3年6月17日(木)午前10時30分
- 3 場 所 渋谷区役所4階教育委員会室
- 4 出席者

(委員)

教育長 五十嵐 俊子	委員 坂本 真理子
委員 大日方 邦子	委員 平岩 国泰
委員 松澤 香	委員 松本 理寿輝

(事務局職員)

教育委員会事務局次長	富井 一慶
教育政策課長	篠原 保男
学務課長	工藤 和子
教育指導課長	渡辺 浩一
地域学校支援課長	小林 由江
教育センター所長	小林 繁
副参事(特命担当課長)	(教育センター所長兼務)
生涯学習振興課長	熊澤 雄一郎
中央図書館長	勝部 弘樹
学校施設整備調整担当課長	堀江 崇

(書記) 小山 夏紀 伊藤 伸雄

- 5 会議の概要 別紙のとおり

報告

(1) 令和3年度 渋谷区立小中学校におけるシブヤ科の取組について

[資料1：令和3年度渋谷区立小中学校シブヤ科テーマ一覧]

議事運営等

- 令和3年第12回教育委員会定例会を開会
- 議事録署名に坂本委員を指名
- 教育委員会事務局次長が欠席

■ 教育長報告要旨

- 6月2日に令和3年第2回区議会定例会が開会された。6月2日から6月4日の3日間、本会議が開かれ、私も答弁した。9人の議員から37件の質問があり、教育長着任に伴う今後の方針や目指す教育像についての質問や、ICT教育、幼稚園・学校での感染症対策などのご質問をいただいた。次に、松濤美術館の企画展についてであるが、4月20日から6月13日まで開催予定としていたフランス・ベーコン展は、4月27日から6月20日までの臨時休館により、そのまま閉幕となった。美術館はオリジナルの作品を見ていただく場であることから、その機会を提供できないことは非常に残念な想いである。美術品の多くは、長い歴史における幾多の災難を乗り越え、今日の私たちの手に託されている。そうした芸術の力は、必ずやこの困難な時期に、人々に勇気と希望を与えてくれると思う。松濤美術館では、本年10月から、開館40周年記念として、美術館を設計した白井晟一氏についての展示を行う。困難な時だからこそ、この記念すべき年を節目として、教育委員会としても、さらに人々を励まし、喜びや安らぎを与える文化芸術活動に取り組んでいきたいと思う。

◆ 報告 1

令和3年度 渋谷区立小中学校におけるシブヤ科の取組について

—◇ 説明要旨

(※別紙資料1に基づき教育指導課長が説明)

- 令和3年度 渋谷区立小中学校におけるシブヤ科の取組について報告する。
令和3年度から全区立小中学校において、シブヤ科を行っている。シブヤ科の目的は、自分たちが住んでいる渋谷について、よく知り、よく考え、発信していくことを通して、地域や渋谷区への誇りや愛着、プライドを育むとともに、未来の渋谷区の創り手となる人材を育てることである。ここでの学習は、総合的な学習の時間を中心に、各学校が定めたテーマに沿って各個人が渋谷に関する様々な統計資料や、実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、調べ学習やインタビューを行うなどして、情報を集めるとともに、その情報を整理・分析し、検討しながらまとめ、発表していくことで表現する力を養っていく。昨年度モデル校であった、幡代小学校、千駄谷小学校、笹塚中学校の3事例を紹介する。幡代小学校第3学年では、「みんなの緑道公園計画」と題し、身近にある緑道を区民の憩いの場所にするため、自分たち

ができることをそれぞれが考え、協議した案を、区の緑道担当の職員にオンラインを活用して提案していくという学習を行った。自分たちに出来ることを3年生の目線で考え、社会科で学習した地域のことを生かしながら、「あればいいもの」、例えばこういったベンチがあるといいなということを書き表しにして表すなど、工夫して取り組みを行った。今年度も第3学年において、同じテーマを掲げ取り組んでいく。千駄谷小学校では、第5学年において、食育の観点から、「減らそう、食品ロス」と題し、給食、家庭や地域の取組調査を基に、現在の状況や課題を見出していこうとする取組を行った。その課題を基に、食品ロス削減のための新たな取組を検討し、地域や企業の方に提案をしたり、意見を伺ったりしながら、学習を進めていく内容である。昨年度は、コロナ禍でもあり、校外での学習には至らなかったが、残菜の現状について栄養士にインタビューをしたり、どうしたら残菜を減らすことができるか話し合ったりするなどの活動をした。今年度も第5学年において、食育に関するテーマを取り上げ、地域や企業の方と協力しながら行っていく。笹塚中学校の第1学年では、笹塚商店街の活性化を目標に、地域とともに商店街のPR活動を行う取組を行った。計画では、様々な分野での「地域とのつながり」を考え、職場体験を実施しながら理解を深めていく予定であったが、コロナ禍で職場体験が実施できなかった。そこで、アンケート調査や電話によるインタビューなどにより、地域の実態を探るとともに、地域の一員としての意識を高める活動となるような取組を行った。今年度は、引き続き第2学年において、地域の活性化をテーマに、職場体験と関連付け、更に学習を深めていく計画である。このように、児童・生徒がこのシブヤ科の学びを通して、社会をより良く築くために、学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自己の役割や互いの良さを生かしながら積極的に社会に参画する態度を養っていきたいと考えている。

—◇質疑応答

(松本委員)

○シブヤ科については素晴らしい取組だと思う。社会に開かれた教育課程にも繋がり、渋谷区としてのシティプライドも含め、教育あるいは区の方向性とも合っていると思う。その中で2点質問がある。1点目であるが、目的の中に発信するという表現があったが、発信についてはどのような考えがあるのか教えてほしい。2点目であるが、シブヤ科のテーマが一覧にあるが、構想や目的としているものはあるのか。また、各学校はどのように選び、内容を決めているのか教えてほしい。

(教育指導課長)

○1点目の発信の仕方については、クラス単位で自分たちのグループまたは個人で発表を行ったり、学年や全体で集まって調べた内容を発信したりしていく。また、区の担当者に調べたことを発表するなど、様々な発表の仕方があるが、子供たちが効果的な発信方法について考えていくことも、一つの学習と位置付けている。2点目のシブヤ科のテーマ一覧については、学習指導要領で定められた総合的な学習の時間の事例も踏まえて、課題設定から子供たちが考えていくという学習としている。

(松本委員)

○発信の方法については色々あると思うが、子供たちの発表の場が社会とのコミュニケーションがあるような場であればあるほど、その取組としては盛り上がると思うし、プロジェクトを一緒に行った渋谷区の方にプレゼンテーションをするというのもとても良いと思う。また、コミュニティスクールなどを活用しながら地域の方にも協力していただき、子供たちが発表する場をリアルではなくオンラインでも出来ると思った。このようなアイデアを大事にしていくことでより盛り上がっていくと感じた。テーマについても、小学校と中学校で表現が違うことも理解出来た。

(坂本委員)

○自分が育ってきた渋谷と他区や他県との違いを、家族を巻き込みながら研究することも、広がりが出て面白いのではないかと考えた。

(平岩委員)

○総合的な学習の時間が正に狙い通りにデザインされたと思い、本当に楽しみにしている。そして、渋谷の誇りがまた一つ増えたという感じを持った。また、今後シブヤ科をより良くするために4点伝えたい。1点目であるが、テーマについては、子供たちが本当に探求したいことを自分で選び取ることがとても大切であるため、そのようなステップがあると良いと思った。2点目であるが、コミュニティスクールを活用する絶好のチャンスだと思っているので、教員の負担を減らすために、探求をナビゲートするところに地域の人を活用していただきたい。3点目であるが、発表については社会を巻き込みながらこの学びを発展させていくのが一番良いので、地域あるいは保護者に対して発表する場を是非作っていただきたい。4点目であるが、考えたことを実行したり、継続したりしてほしいと思った。是非、実際にやってみたり、できない現実があることについても伝えながら、本当に出来るものはやってみたり、継続したりしてほしいと思う。また、私の運営している法人でも、プロジェクト科という名前でこの取組を行っているが、プロジェクトベース

ドローイングと言われる手法と、生徒が自分たちで学校のルールや校則を考える、ルールメイキングと呼んでいる手法を掛算することで、自分たちが学校で学ぶ意味や社会の一員であると感じられるようになる気がする。学校のルールが一番のプロジェクトベースドローイングだと思っているので、それを掛け合わせることで更に渋谷の学校は良くなると思う。

(大日方委員)

○面白いテーマだと思ったが、どのようにテーマを決めているのか気になった。先生が主導されているのであれば、是非子供たちもこのテーマ設定から一緒に考えられると、より主体的に学習出来ると思った。また、シブヤ科の取組について、世代を超えた地域の皆様に知っていただくという意味で、町会の掲示板に発表用のプレゼンテーションを子供たちに作ってもらうことも良いと思った。渋谷への愛着を小中学校から地域に広げ深めていき、連携を強めていくような形を提案したいと思う。

(松澤委員)

○この取組は非常に素晴らしいと思う。今の社会の在り方について、その一員として、当事者意識を持って課題解決するところに直結するようなしかも身近な取組だと感じた。このようなことを早い段階から行っていくことに意義があると思う。また、自発的にテーマを考え、ルールを作っていくところまで結び付けられたらますます素晴らしい取組になると思った。

---◇議事結果 -----

○了承する。

議事終了 閉会

上記記載の記録について相違ないことを認め、ここに署名する。

教育長 五十嵐 俊 子

委 員 坂 本 真理子